

神奈川県における「国際教室在籍生徒の進路にかかわるアンケート調査」の結果 (2014年3月卒業生)

(公財) かながわ国際交流財団は、外国につながる子どもの進路に関するニーズを把握するため、国際教室(☞用語:1ページ下参照)在籍生徒の進路状況について、2009年度から継続して調査を実施し、その結果を公表しています。本調査は、神奈川県教育委員会や市町教育委員会の協力のもと、県内の公立中学校に設置されている国際教室にアンケート調査を行い、その結果をとりまとめたものです。

調査の結果、明らかになった現状や課題は、

- ①国際教室在籍生徒にとって「在県外国人等特別募集(以下、「在県枠」☞用語:1・6ページ参照)」は進学の大きな助けになっているが、国際教室の約4分の3の生徒は在県枠の条件に該当しない
- ②県内公立中学校の全生徒の進路状況と比べ、国際教室在籍生徒は定時制高校への進学率が高い
- ③在県枠該当者が通学可能な地域に在県枠設置校が少ない等の実態です。

ご回答いただいた国際教室の先生方や関係機関、また、調査結果の分析にご協力いただいたNPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)のみなさまに感謝申し上げます。

1. 調査結果

【1】 国際教室在籍生徒の概要	P2
【2】 国際教室在籍生徒の進路状況	P3
【3】 在県枠への進学状況	P4
2. 自由記述より ～在県枠や外国につながる子どもの進路に関して～	P5
3. 調査の概要について	P5
4. [参考資料]神奈川県公立高等学校の入学者選抜制度について	P6

☞ 国際教室とは?

神奈川県では、日本語指導が必要な児童・生徒を必要に応じて取り出して日本語指導を行う「国際教室」を設置している学校があります。指導内容は自治体や学校ごとに違いますが、一般的には週数時間、在籍クラスから取り出して、国際教室等で学習します。学習内容は、日本語指導や教科学習などで、教員、日本語講師等が指導に当たっています。

☞ 在県外国人等特別募集(在県枠)とは?

神奈川県の公立高等学校入学者選抜制度には、入国後の在留期間(小学校入学前の在留期間を除く)が通算3年以内の外国籍の生徒、または日本国籍を取得して3年以内の生徒を対象とする特別な募集(2014年度定員109人)があります。詳細については、6ページ参照。

1. 調査結果

【1】 国際教室在籍生徒の概要

～国際教室在籍生徒は微増、約 4 分の 3 の生徒は在県枠の条件に該当しない～

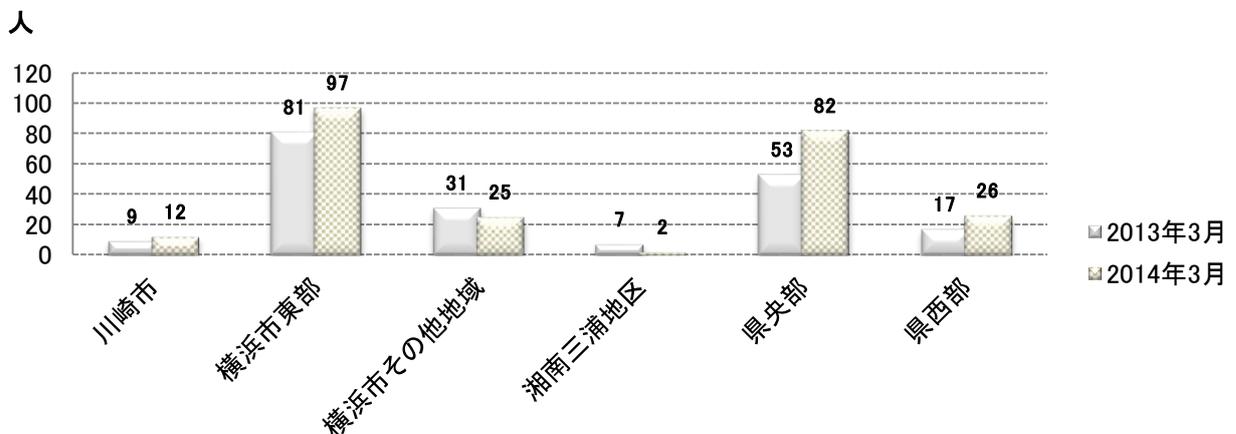
[考察 1] 2014 年 3 月に卒業した国際教室の生徒は、2013 年と比べ 46 人増えている。新規来日する学齢期の子どもは、リーマンショックや東日本大震災で減少傾向にあったが、増加に転じ、特に県央部の増加傾向が大きい。在県枠に該当する生徒の割合は、26%と変わらず、国際教室の約 4 分の 3 の生徒が、条件に該当しないため、在県枠を利用できない。

[表 1] 2014 年 3 月に卒業した国際教室在籍生徒数(地域別、在県枠の該当別)

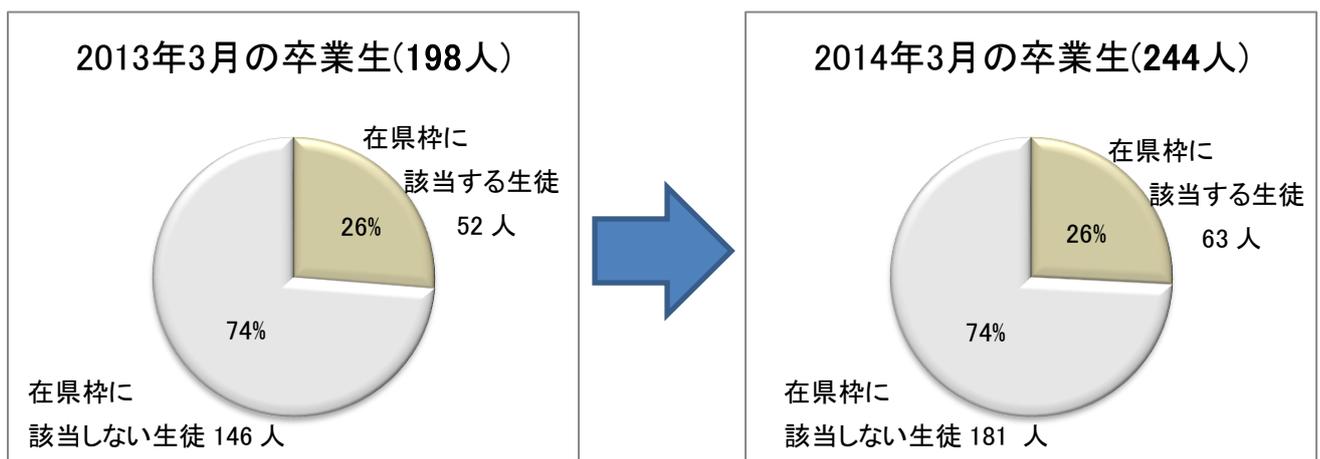
地域別	川崎市	横浜市東部	横浜市 その他地域	湘南三浦 地区	県央部	県西部	計
卒業生徒数	12 人	97 人	25 人	2 人	82 人	26 人	244 人
①在県枠に 該当する	7 人	25 人	7 人	2 人	16 人	6 人	63 人
②在県枠に 該当しない	5 人	72 人	18 人	0 人	66 人	20 人	181 人

地域区分については、5 ページ「調査における地域の区分」参照。

[図 1] 2013 年および 2014 年 3 月に卒業した国際教室在籍生徒の推移(地域別)



[図 2] 2013 年および 2014 年 3 月に卒業した国際教室在籍生徒の推移(在県枠の該当別)



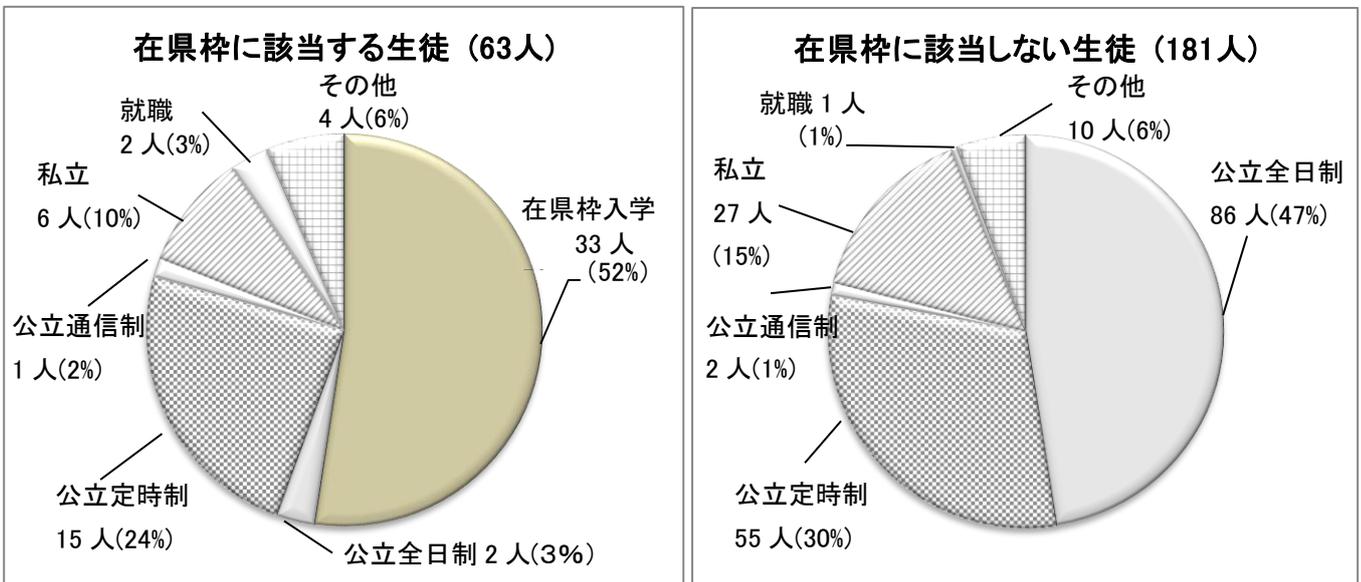
【2】 国際教室在籍生徒の進路状況

[表2] 2014年3月に卒業した国際教室在籍生徒の進路先

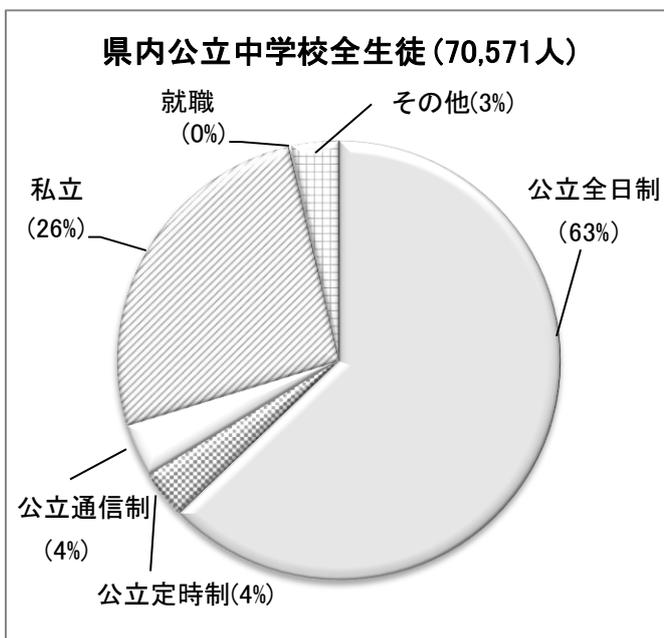
進路別	公立高校					私立高校	就職	その他 (進学準備・不明)	計
	特別募集枠での進学		一般枠での進学						
	在県枠	帰国枠	全日制	定時制	通信制				
卒業生徒数	33人	0人	88人	70人	3人	33人	3人	14人	244人
①在県枠に該当する	33人	0人	2人	15人	1人	6人	2人	4人	63人
②在県枠に該当しない			86人	55人	2人	27人	1人	10人	181人

「帰国枠」とは、「在県枠」とは別に設けられた「海外帰国生徒特別募集」の略です。(用語：5ページ参照)

[図2] 国際教室在籍生徒の進路状況(在県枠の該当別)



[図3] 参考 県内公立中学校の全生徒の進路状況



～在県枠が進学の助けになる一方で、
定時制課程への進学割合が高い～

[考察2] 2014年3月に卒業した国際教室在籍生徒は、在県枠に該当する生徒の半数以上が在県枠のある高校に進学しており、入試制度に「在県枠」があることによって、高校進学が果たされていると言える。

一方で、在県枠に該当しない生徒は公立定時制への進学が30%と非常に高く、2013年の25%から5%増加している。県内公立中学校の全生徒の公立定時制への進学は4%であり、国際教室在籍生徒の公立定時制への進学の割合が非常に高いことがわかる。

【3】 在県枠への進学状況

～在県枠該当者の在住地域と在県枠設置校の所在地に偏りがある～

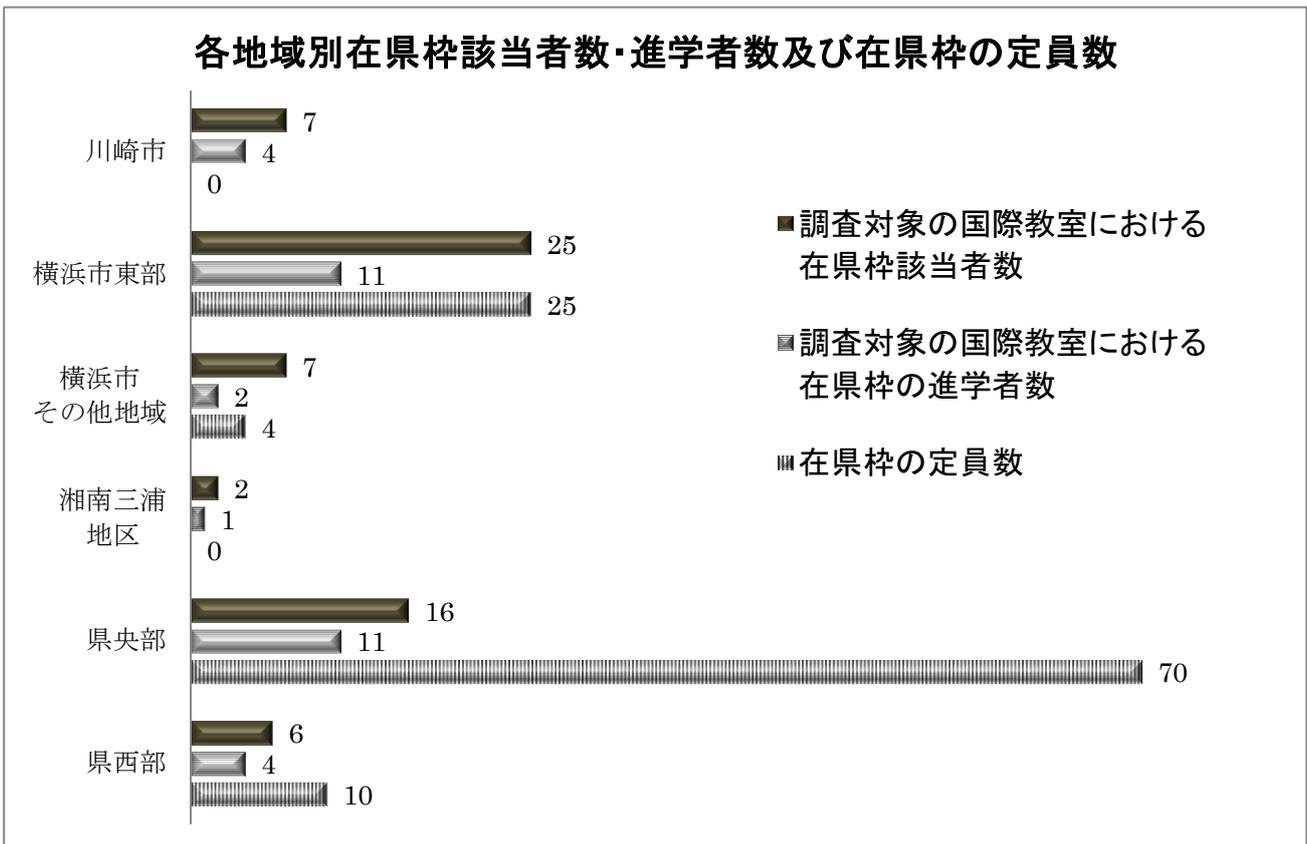
〔考察3〕 国際教室の在県枠に該当する生徒の約40%（25人）が横浜市東部に在住しているが、その地域での在県枠の定員比率が22.9%（定員数25人）にとどまっており、在県枠への進学割合は25人中11人で50%以下になっている。川崎市及び湘南三浦地区には在県枠設置校がないため、他地域の在県枠設置校へ進学しているが、その比率が低い。

当調査では把握していない国際教室がない中学校の生徒や既卒で来日した受験生にも在県枠の該当者がおり、特に川崎市や横浜市東部など外国人が多く居住する地域に該当者が多いことを考慮すると、在県枠数や在県枠設置校の所在地に偏りがあり、これを是正する必要があると思われる。

〔表3〕地域別、在県枠のある高校の定員数と国際教室の卒業生徒数の進学状況（2014年3月）

地域別		川崎市	横浜市東部	横浜市 その他地域	湘南三浦 地区	県中部	県西部	計
在県枠のある高校の 設置校数		0校	2校	1校	0校	6校	1校	10校
上記の募集定員		0人	25人	4人	0人	70人	10人	109人
国際教室 の卒業生 のうち	在県枠に 該当する	7人	25人	7人	2人	16人	6人	63人
	在県枠で 進学した	4人	11人	2人	1人	11人	4人	33人
	在県枠へ の進学率	57%	44%	29%	50%	69%	67%	52%

〔図4〕地域別にみた在県枠該当者数と在県枠進学者数及び在県枠定員数の比較



2. 自由記述より

～在県枠や外国につながる子どもの進路保障に関して～

* 統一性を保つため、趣旨を外さない範囲で、一部語句を修正しています。

●「在県枠」の新設及び、定員増加について

- ・川崎市や横浜市東部に在住している生徒が通学可能な範囲の高校に在県枠を増やしてもらいたい。
- ・横浜市立高校に在県枠を増やすべきである。

●「在県枠」の条件について

- ・特別枠に関しては、現在の規定である「入国後の在留期間が通算3年以内」について見直しの必要性を感じる。
日本で1～2年程度暮らし、国へ帰った後しばらくの期間を経て再び来日するといったケースなども多く、必要なのは何年在留かではなくて、例えば個々の日本語能力や家族の日本での生活設計などから総合的に判断するといった制度が望まれる。
- ・来日3年以上でも日本語（語彙）が未熟な生徒がおり、条件の年数の幅がもてないものか。
- ・在留期間が「在県枠」の条件に合わないが、小学校が未就学の生徒の場合は、対象に加えられないだろうか。
- ・日本国籍しか持たず、日本語困難な子どもの選択肢は海外帰国生徒特別募集（以下「帰国枠」）となるが、ハードルが高い。帰国枠は定員割れしている場合があるので、在県枠と帰国枠を分けず一本化してほしい。

●その他

- ・在県枠についての入試方法がもっと早い段階でわかれば、もっと情報収集ができたと思う。
- ・「日本での生活にどのようなビジョンを持ち、生活設計をしていくのか」この視点が定まらない家庭（保護者）が多いことが課題であると感じる。
- ・家庭で母語（外国語）利用の生徒は年数に限らず学習に壁がある生徒がある。
- ・国際教室の受験生の半数以上が、地域の学習支援教室の支援を受けて、進路決定に至ることができ、学校側も大変感謝している。このような支援団体が今後一層発展、充実されることを望む。
- ・在県枠の条件緩和ができれば、外国につながる彼らの貴重な存在をより有効に発揮できるようになる。

3. 調査の概要について

1. 調査対象 神奈川県内の国際教室設置の公立中学校（2013年度国際教室設置校）
2. 調査方法 調査票の配布・回収を、郵送及び FAX により実施
横浜市は、各中学校に調査を依頼して回収
他の市町は市町教育委員会に調査依頼、教育委員会により集約された回答を回収
3. 実施時期 2014年3月～6月
4. 調査内容 2014年3月に卒業した国際教室在籍生徒の進路状況について
5. 回収率 100%

* 調査における地域の詳細

横浜市東部（鶴見区・神奈川区・西区・中区）
 湘南三浦地区（横須賀市・鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・逗子市・三浦市・葉山町・寒川町）
 県央部（相模原市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村）
 県西部（平塚市・小田原市・秦野市・伊勢原市・南足柄市・大磯町・二宮町・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町）

4. [参考資料] 神奈川県公立高等学校の入学選抜制度について

☞ 在県外国人等特別募集とは？

神奈川県の公立高等学校入学選抜制度では、「在県外国人等特別募集」を実施しています。
志願資格は次の通りです。

外国籍または、日本国籍を取得して3年以内で、日本での在留期間が通算3年以内（小学校入学前の在留期間を除く）の人

受検科目は、国語、英語、数学の3科目で、他に面接があります。問題は一般募集と同じですが、問題文にふりがなが付いています。詳しくは下記ガイドブックを参照してください。

（神奈川県教育委員会とNPO法人多文化共生教育ネットワークかながわで作成している2015年度入学希望者向け「神奈川県の公立高校入学のためのガイドブック」－多言語版－より）

* 県教委HPよりダウンロード可能 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f160600/p447657.html>

[参考資料1] 在県外国人等特別募集 2006～2014年度 合格率の推移

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
募集校数(校)	7	7	8	8	10	10	10	10	10
募集定員(人)	69	69	74	79	104	109	109	109	109
前年増(人)	+10	0	+5	+5	+25	+5	0	0	0
受検者数(人):a	71	93	98	119	140	120	95	90	115
合格者数(人):b	61	67	66	88	100	100	83	80	92
合格率:b/a	85.9%	72.0%	67.3%	73.9%	71.4%	83.3%	87.4%	88.9%	80.0%

(神奈川県教育委員会発表資料より作成)

[参考資料2] 在県校設置校 2013・2014年度 入学選抜合格情報

	学校名	学科・コース名・部	募集 定員	受検者数		合格者数		欠員		倍率	
				(2013)	(2014)	(2013)	(2014)	(2013)	(2014)	(2013)	(2014)
東部 横浜市	県立鶴見総合高校	総合学科	15	18	27	15	15	0	0	1.20	1.80
	県立神奈川総合高校	単位制普通科 国際文化コース	10	12	12	10	10	0	0	1.20	1.20
県西	県立平塚湘風高校	単位制普通科	10	7	9	6	9	4	1	1.00	1.00
県央部	県立相模原青陵高校	単位制普通科	10	6	12	6	10	4	4	1.00	1.20
	県立橋本高校	普通科	10	12	14	10	10	0	0	1.20	1.40
	県立有馬高校	普通科一般コース	10	8	11	8	10	2	2	1.00	1.10
	県立座間総合高校	総合学科	10	8	12	8	10	2	2	1.00	1.20
	県立愛川高校	普通科	10	2	4	2	4	8	6	1.00	1.00
横・他	横浜市立横浜商業	単位制普通科午前部	10	8	9	8	9	2	1	1.00	1.00
		単位制普通科午後部	10	3	1	3	1	7	9	1.00	1.00
横・他	横浜市立横浜商業	国際学科	4	6	4	4	4	0	0	1.50	1.00

(神奈川県教育委員会発表資料より作成)

☞ 海外帰国生徒特別募集とは？

海外帰国特別募集の志願資格は次の通りです。

保護者の勤務等の関係で、継続して2年以上外国に在住し、3年以内に帰国した人

次の公立高校6校で特別募集を実施しています。以下各校の（ ）内は2014年度の募集定員
神奈川総合高校(10)、新城高校(10)、横浜国際高校(20)、弥栄高校(5)、鶴嶺高校(15)、横浜市立東高校(10)
海外から帰国した生徒の中には、日本語指導が必要で、国際教室で学ぶ生徒もいます。